

日本映画放送株式会社 第66番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成30年11月20日（火）16時～17時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 8名 / 出席委員数 6名
出席委員（順不同、敬称略）：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・鳥居 美砂・
西 正・宮崎 美紀子
欠席委員（敬称略）：砂川 浩慶・田保橋 淳
放送事業者側出席者：代表取締役社長 杉田 成道
常務取締役 佐藤 信彦
編成制作部長 小川 英洋
編成制作部 小林 良弘
編成制作部 宮澤 俊平
編成制作部 三宅 歩
番審担当 堤 靖芳
清水 明（記）

4. 議題（1）審議事項

時代劇専門チャンネル「舟木一夫、時代劇を語る」について

（2）報告事項

時代劇専門チャンネル・日本映画専門チャンネル 連動企画

「映画『散り椿』公開連動番組・編成」について

5. 議題（1）概要

1963年に「高校三年生」で彗星のごとくデビューした歌手・舟木一夫。テレビ時代劇の金字塔「銭形平次」の主題歌を担当し、今も時代劇と歌謡ショーを合わせた舞台を毎年上演している。また、時代劇専門チャンネルの大ファンでもある。そんな舟木が、徳光和夫を相手に、懐かしい時代劇映画の思い出から、自身の時代劇体験、そして現在の時代劇にかける情熱までを縦横無尽に語り尽くす1時間番組を制作・放送し、内容を審議いただいた。

【審議ポイント】

- 長期にわたり熱狂的支持を送る舟木一夫のファンを核に、団塊世代などの女性に対して、時代劇専門チャンネルで放送しているコンテンツに興味を持たせる内容になっていたか。
- 時代劇をよく知り、時代劇専門チャンネルのヘビーユーザーである舟木一夫を通じ、コアな時代劇ファンにも満足いただける内容となっていたか。

6. 議題（1）審議内容

- ・舟木は時代劇ファンの優等生。ただ、舟木ファンの取り込みは成功したのだろうが、広く時代劇ファンが集められたかは疑問。構成も良かったし、時代劇専門チャンネルのPRにもなっていて良かったが、なにより舟木の時代劇への情熱に観ごたえがあった。
- ・舟木は時代劇に関する知識が豊富で、刀の位置、帯の締め方、カメラの引き方まで論理立てて解説し、どの話もおもしろかった。ただ、舟木ファンの時代劇初心者には、内容が難し過ぎただろう。
- ・視聴者層の若返りと女性ファンの獲得は何度も議題に上がっているが、30代～50代への若返りは期待できないのではないか。また、番組を見せようとする仕掛けが足りない。番組の内容自体はとても興味深く、天秤を担ぐ実演は確かにいなせだと感心した。
- ・資料を見て反響の大きさに驚き、舟木人気の高さを知ったし、舟木を前面に押し出した企画に納得した。自身が出演作していない作品を現役俳優がこれほど楽しそうに話すのは初めて見た。引き出したのは、徳光アナウンサーの“相槌芸”と、聞き上手さゆえだろう。『一心太助 江戸っ子祭り』を観て、アイドル時代劇の特集も観たいと思った。
- ・今も座長として時代劇の舞台に立っているだけあって、演技者としての説得力があった。厳しく客観的に自己評価する姿にも好感が持てた。ライトユーザーのため、しっかりクレジットを入れ、映画のシーンや写真などを丁寧に紹介してほしかった。時代劇専門チャンネルの解説者的存在だった能村庸一亡き今、その役を継承できる存在かもしれない。
- ・冒頭で舟木のポートレートが掲載されたフランスの哲学者ロマン・バルトの著作『記号の国』を紹介していたが、よくぞ見つけたと感心した。
- ・徳光とのリラックスしたやりとりで楽しませてもらった。番組を収録した場所も素敵で、ライティングも良かった。時代劇専門チャンネルならではの番組で、チャンネルの特徴が上手く出ている。

各委員からの発言に対して、当社からの説明・回答は以下の通りであった。

- ・舟木は積極的にコンサート活動を継続し、全国に数万人のファンがいる。また、舟木自身が時代劇専門チャンネルのヘビーユーザーで、いつかチャンネルに登場したかった、という積極的な発言もあり、企画が動いた結果、新規加入者の掘り起こしに成功した。舟木ファンは50代後半から60代の女性なので、視聴者のなかでは実は若い方だ。将来舟木の歌手としての一面が出せる番組があってもよいかもしれない。
- ・座長を務める公演で歌謡ショーと時代劇をいつも上演しているだけあって、ファンからの反応は良く、番組も面白くなった。ただ、視聴者の年齢層が上がり続けている時代劇専門チャンネルの今後を考えると、30代から50代の視聴者にアピールできる番組を考えていかねばいけないし、現在そうした狙いで瑛太主演の「闇の歯車」などの新しい番組づくりも進めている。

7. 議題（2）報告事項

日本映画専門チャンネル・時代劇専門チャンネル共同企画

「9.28 映画『散り椿』公開連動企画」について

『日本沈没』『八甲田山』『居酒屋兆治』『あ・うん』『鉄道員(ぽっぽや)』等の撮影技師を務め、『劔岳 点の記』で監督業にも進出した名カメラマン・木村大作が、V6 の岡田准一を主演に迎え、監督として挑んだ初時代劇が『散り椿』である。日本映画放送株式会社は、時代劇専門チャンネルとしてこの作品の製作に参加。9月28日(金)の全国公開に合わせ、時代劇専門チャンネルと日本映画専門チャンネルの2チャンネル共同企画として、「日曜邦画劇場 SP 木村大作の映像世界」を編成し、オリジナル特番「映画『散り椿』公開記念 60分特番 岡田准一×監督：木村大作が語る“美しい時代劇”ができるまで」を制作、放送するなど、監督・撮影を務めた木村大作と主演を務めた岡田准一の関連作品を、9月から10月の2か月にわたり大特集放送した。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、平成31年1月15日(火)15時より開催。